

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与するべく絶えず検査領域の拡大に努めておりますが、このたび、下記項目の検査受託を開始することになりました。
取り急ぎご案内させていただきますので、ご了承のほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- 胃疾患リスクABC分類 : 項目コード 4239

※ 本検査のご依頼は、保健科学セット：96をご利用下さい。
その他、詳細は裏面をご参照下さい。

受託開始日

※ 平成23年4月1日（金）受付分より新規受託開始

ヘリコバクターピロリの感染が胃癌の発生と深く関係するといわれておりますが、当検査は、萎縮性胃炎のマーカーである血清ペプシノーゲンとヘリコバクターピロリの抗体価を同時に測定し、得られた結果を組み合わせることによって、胃の健康度を分類し評価いたします。

A～D群の4群に分類することで、リスクに応じた検診間隔を設定し効率的な健康管理を実施することが可能になります。

保健科学グループ



株式会社 **保健科学研究所**

本社／ 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 TEL 045-333-1661
仙台支社／ 仙台市宮城野区扇町 1-3-5 TEL 022-236-9345
中部支社／ 名古屋市西区則武新町 2-20-17 TEL 052-582-3201
大阪支社／ 豊中市原田中 1-2-3 TEL 06-6843-5622
福岡支社／ 福岡市博多区山王 2-14-34 TEL 092-452-0851

い かが く 小 田 原 衛 検
新潟臨床検査センター カスタムメディカル研究所
保健科学東日本 ケーアイエー細胞病理研究所
日本ノーバメディカル研究所 日本厚生団衛生科学研究所
組織科学研究所 相模医研
遠州予防医学研究所 湘南医化学検査センター
東部メディカルセンター

▼ ご依頼方法について

- 当検査は、【4239】胃疾患リスクABC分類の他に、【4675】ペプシノゲン I・II (PG I・II)、【4176】ヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株)の同時依頼が必要です。

つきましては、

- ① 保健科学セット(HKKセット): 96をご利用下さい。
HKKセット: 96の内容は、【4239】胃疾患リスクABC分類、【4675】ペプシノゲン I・II (PG I・II)、【4176】ヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株)の3項目です。
- ② 保健科学セット: 96をご利用にならない場合は、【4239】胃疾患リスクABC分類、【4675】ペプシノゲン I・II (PG I・II)、【4176】ヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株)の3項目をそれぞれ同時に依頼下さい。

新規受託項目

項目コード	検査項目	検査方法	基準値	所要日数	実施料判断料	備考
4239	胃疾患リスクABC分類	ペプシノゲン I・II (PG I・II) :ラテックス凝集法 ヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株) :EIA法	※1	3 ~ 5	-	※2

※1 下記の「胃疾患リスクABC分類の基準」を参照願います。

また、PG I・II およびヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株)の基準値は、当社の通常の基準値と同じです。

※2 ご報告は、胃疾患リスクをA~D群まで分類して報告します。

また、同時に依頼いただく、【4675】ペプシノゲン I・II (PG I・II) および、【4176】ヘリコバクター・ピロリ抗体(国内株)の結果も併せて報告します。

ご依頼方法については、上記の「ご依頼方法について」をご参照下さい。

▼ 胃疾患リスクABC分類の基準

		H. ピロリ抗体	
		(-)	(+)
ペプシノゲン I・II	(-)	A	B
	(+)~(3+)	D	C

【胃の健康度】

A群: 健康的な胃粘膜です。
B群: 少し弱った胃粘膜です。
潰瘍等に注意し、内視鏡検査を受けましょう。
C群: 胃粘膜が萎縮しています。
定期的な内視鏡検査を受けましょう。
D群: 萎縮がかなり進んだ胃粘膜です。
毎年の内視鏡検査を受けましょう。

B、C、D群の順にリスクが高くなります。

【注意事項】

○ 以下の場合、正しい結果が得られない可能性があります。

- 胃酸分泌抑制剤(プロトンポンプ阻害薬)服用中もしくは、2ヶ月前以内に服用していた方
- 胃切除をされた方
- 腎不全の方

また、明らかな上部消化器症状が有り、胃や十二指腸の疾患が強く疑われる方(保険治療の対象)、食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方(保険治療の対象)やヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、対象として適しません。

※ ピロリ菌の未感染者と既感染者ではリスクが異なると考えられますが、ピロリ菌の除菌既往例では、既感染者が未感染者:A群と分類される恐れがあります。

▼ 参考文献

- 乾 純和, 他: Helicobacter Research 11, 554~561, 2007.
- 井上 和彦, 他: 日本がん検診・診断学会誌 12, 138~143, 2005.
- NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構編: 胃がん リスク検診(ABC検診)マニュアル, 南山堂, 2009